

日本語構造伝達文法  
動詞テ形音便

[2-4]

## 動詞テ形音便

この項目は『日本語構造伝達文法・発展A』の  
A3章の内容に基づいています。

今泉 喜一  
2011年 6月

印刷: 1-5,8-9,11-14,16,18,21-22,24,27-28,30-31,33-34,36-37,39,41-47 48は別刷

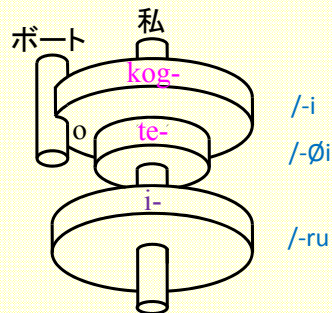
動詞テ形音便

**音便はなぜあるか。** .....発音しやすくするためにある。  
発音しやすいとはどういうことか。

走る	走っている
呼ぶ	呼んでいる
言う	言っている
鳴く	鳴いている

音便形は発音しやすくなった形。  
上の音便形の元の形は？

走る	走りて	走って
	hasir-i=te-Øi=	
呼ぶ	呼びて	呼んで
	yob-i=te-Øi=	



私-Ø1	ボート-o	kog-i=te-Øi=i-ru
		こぎて いる
私-Ø1	ボート-o	ko-i=de-Øi=i-ru
		こいで いる

**どう発音しやすくなっているか。**

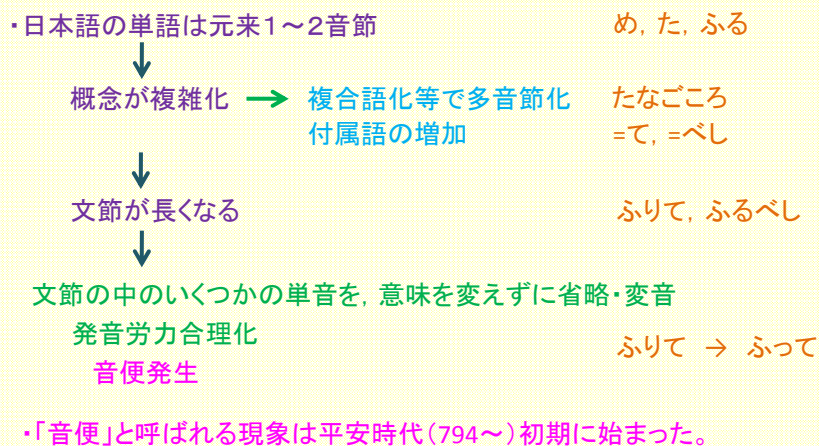
動詞テ形音便

この項目で考えようとする問題

- ① 音便はどういう原則を持つのか。
- ② 一段動詞はなぜ音便化しないのか。
- ③ 五段動詞それぞれの音便形はなぜそのような形になるのか。
- ④ 「買う(w-)」はなぜ促音便になるのか。
- ⑤ 「飛ぶ(b-)」はなぜ促音便ではなく撥音便になるのか。
- ⑥ イ音便であるはずの「行く(k-)」はなぜ例外的に促音便となるのか。
- ⑦ 「泳ぐ(g-)」はなぜテを濁音化するのか。
- ⑧ 「指す(s-)」はなぜ音便形を持たないのか。
- ⑨ 「～たい」形表現(飲みたい)はなぜ音便形にならないのか。
- ⑩ なぜ尊敬4動詞は音便化するのか。

動詞テ形音便

音便の発生



動詞テ形音便

### 動詞テ形の構造

客

起きている  
oki-Øi = te-Øi = i-

人

立ちている  
tat-i = te-Øi = i-

鳥

鳴きている  
nak-i = te-Øi = i-

起きている	oki-Øi = te-Øi = i-	一段動詞(母音幹動詞)
立ちている	tat-i = te-Øi = i-	五段動詞(子音幹動詞)
鳴きている	nak-i = te-Øi = i-	五段動詞(子音幹動詞)

動詞テ形音便

口腔図は、松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』(1998)の図を使用。

### 立ちて tat-i = te-

平安時代の「ち」は[ti]

立ちている  
tat-i = te-Øi = i-

**t**  
接触

**i**  
接触解除

**t**  
接触

母音 i があるので、一度接触を解除する必要がある。  
母音 i を発音しなければ、接触のままでよい。  
→ 接触を解除するエネルギーがいない。

**t**  
接触(前半)

**t**  
接触(後半)

音便:  
拍数を保ちつつ、  
2回の接触を1回に減じる省力。

tat-i = te-  
たって

動詞テ形音便

彼 **kaer-**  
**te-**  
**i-**

帰って **kaer-i =te-**

母音 i を発音しないで接触を1回に減じる。  
[r]音を後ろの[t]音と同じにする。(逆行同化)

音便:  
拍数を保ちつつ,  
2回の接触を1回に減じる省力。

**r** 接触      **i** 接触解除      **t** 接触

**t** 接触(前部)      **i** **kaet-i =te-**      **t** 接触(後部)  
かえって

動詞テ形音便

音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

子音幹動詞

あ			
か	==k-	sak-	1
さ	==s-	sas-	2
た	==t-	tat-	3
な	==n-	sin-	4
は	==h-	-	
ま	==m-	yom-	5
や	==y-	-	
ら	==r-	tor-	6
わ	==w-	kaw-	7
が	==g-	kog-	8
ざ	==z-	-	
だ	==d-	-	
ば	==b-	tob-	9
ぱ	==p-	-	

**tat-i =te-** (立つ)  
**kaer-i =te-** (帰る)  
◎◎●-i =te- (モデル)

↓  
ここにある子音は何種類ある?

9種類ある。

w t k s g m n b r  
wa ta ku si ga ma na bu ron

私が学ぶ論

この9種類の動詞について考えればよい。

動詞テ形音便 音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

**2回の接触を1回に減じる(1)** w t k s g m n b r

第1のパターン -i を省略するパターン

① 立つ tat-    tat-i=te-  
                  tat-i=t-

② 取る tor-    tor-i=te-  
                  tot-i=te-

③ 買う kaw-    kaφ-i=te-  
                  Kat-i=te-

③については後述  
なぜ φ が t になるのか。

動詞テ形音便 音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

**2回の接触を1回に減じる(2)** w t k s g m n b r

第2のパターン -i を省略し, t を有声化するパターン

④ 死ぬ sin-    sin-i=te-  
                  sin-i=de-

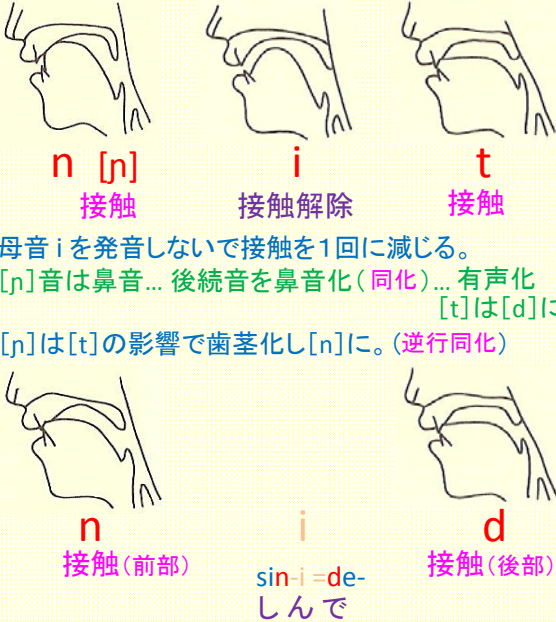
⑤ 読む yom-    yom-i=te-  
                  yon-i=de-

⑥ 飛ぶ tob-    tob-i=te-  
                  ton-i=de-

まず 死ぬ sin- から考える。

動詞テ形音便

死にて **sin-i =te-**



彼  
sin-  
te-  
i-

死んでいる  
sin-i =te-∅i=i-

**n** [ŋ]  
接触

**i**  
接触解除

**t**  
接触

母音 i を発音しないで接触を1回に減じる。  
[ŋ]音は鼻音... 後続音を鼻音化(同化)... 有声化 [t]は[d]に。  
[ŋ]は[t]の影響で歯茎化し[n]に。(逆行同化)


**n**  
接触(前部)

**i**  
sin-i =de-  
しんで

**d**  
接触(後部)

動詞テ形音便

読んで **yom-i =te-**



彼  
yom-  
te-  
i-

読んでいる  
yom-i =te-∅i=i-

**m**  
接触

**i**  
接触解除

**t**  
接触

母音 i を発音しないで接触を1回に減じる。  
[m]音は鼻音... 後続音を鼻音化(同化)... 有声化 [t]は[d]に。  
[m]は[t]([d])の影響で歯茎化し[n]に。(逆行同化)

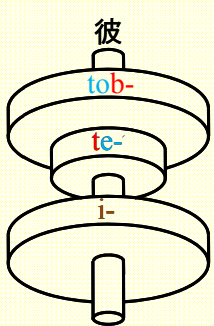
**n**  
接触(前部)

**i**  
yon-i =de-  
よんで

**d**  
接触(後部)

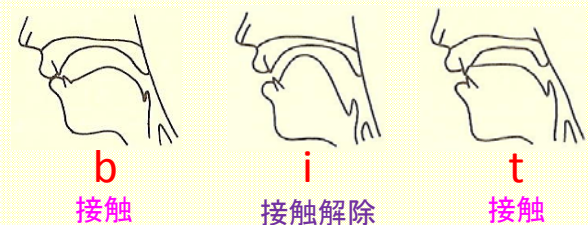
動詞テ形音便

飛んで **tob-i =te-**




彼

飛んでいる  
tob-i =te-∅i=i-



**b** 接触  
**i** 接触解除  
**t** 接触

母音 i を発音しないで接触を1回に減じる。  
[b]音は接触解除なしで有声性を保つと[m]になる。  
[m]は後続音を有声化...[t]は[d]に。  
[m]は[t]([d])の影響で歯茎化し[n]に。(逆行同化)



**n** 接触(前部)  
**i** ton-i =de- とんで  
**d** 接触(後部)

動詞テ形音便

音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

**2回の接触を1回に減じる(3)**      w t k s g m n b r

第3のパターン    子音の接触を省略し, -i を発音するパターン

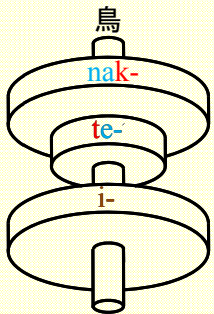
⑦ 鳴く nak-    nak-i =te-  
                  nak-i =te-

⑧ 泳ぐ oyog-    oyog-i =te-  
                  oyog-i =de-

まず 鳴くから


動詞テ形音便

鳴いて **nak-i =te-**



鳥

鳴いている  
nak-i =te-∅i=i-

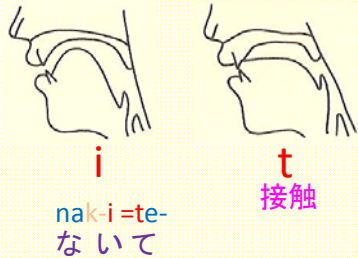


**k**  
接触

**i**  
接触解除

**t**  
接触

母音 i の省略では [k] での 1 拍待機..... 苦しい。  
[k] を省略して, 接触は [t] だけにする。  
その形で接触を 1 回に減じる。



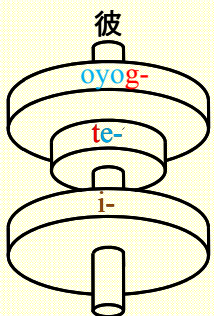
**k**

**i**  
nak-i =te-  
ないて

**t**  
接触


動詞テ形音便

泳いで **oyog-i =te-**



彼

泳いでいる  
oyog-i =te-∅i=i-

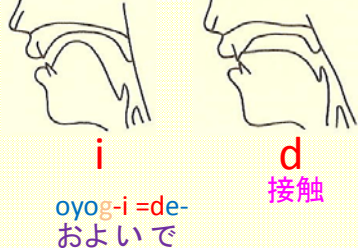


**g [ŋ]**  
接触

**i**  
接触解除

**t**  
接触

母音 i の省略では [g] での 1 拍待機..... 苦しい。  
[g] を省略して, 接触は [t] だけにする。  
音便発生の平安時代, 語中の [g] は鼻音 [ŋ] だった。  
→ [t] は有声化され [d] になった。(同化)



**g**

**i**  
oyog-i =de-  
およいで

**d**  
接触



動詞テ形音便 音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

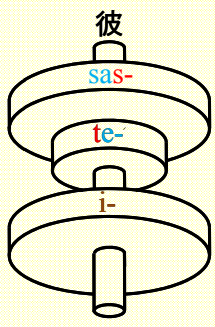
**2回の接触を1回に減じる(4)** w t k s g m n b r

第4のパターン 音便化しないパターン

⑨ 指す sas- sas-i=te-  
sas-i=te-

なぜ音便化しないのか。

動詞テ形音便 指して sas-i =te-



彼


sas-

te-

i-


指している

sas-i =te-∅i=i-




S [ç]

準接触



i


準解除



t


接触

[ç]は摩擦音なので準接触として扱う。  
 [i]を省略しても, 摩擦音なので1拍が保てる。  
 摩擦は非接触なので, もともと接触はtの1回だけ。  
 [ç]は口蓋化音なので[i]がなくても同じよう。  
音便化不必要



S [ç]


非接触



i

sas-i =te-

さして



t

接触

歴史的には一時次のパターンがあった。  
 koross-i=te-  
 koross-i=te-

動詞テ形音便 音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

**2回の接触を1回に減じる(1)** w t k s g m n b r

第1のパターン -i を省略するパターン

① 立つ tat-    tat-i=te-  
                   tat-i=te-

② 取る tor-    tor-i=te-  
                   tot-i=te-

③ 買う kaw-    kaφ-i=te-  
                   Kat-i=te-

③については後述  
 なぜ φ が t になるのか。

③ 買う kaw- について考える。

動詞テ形音便

買ひて kaφ-i =te-      p > φ

彼  
kaφ-  
te-  
i-

φ  
準接触

i  
準解除

t  
接触

[φ]は摩擦音なので準接触。[i]省略でも1拍保持。  
 [φ]は語中で[w]に(ハ行点呼音)。[kaφa]→[kawa]  
 [w](半母音).....1拍が保てない。  
 1拍保持のため.....関東[w]→[t](逆行同化)

t  
接触(前部)

i  
kat-i =te-  
かって

t  
接触(後部)

買ひている  
 kaφ-i =te-∅i=i-  
 kaφ-i =te-  
 kaw-i =te-

関西      関東  
 u母音化      逆行同化  
 kau-i =te-      kat-i =te-  
 koo-i =te-

動詞テ形音便 音便: 拍数を保ちつつ, 2回の接触を1回に減じる省力

**2回の接触を1回に減じる(1)** w t k s g m n b r

第1のパターン -i を省略するパターン

① 立つ tat-    tat-i=te-  
                  tat-i=te-

② 取る tor-    tor-i=te-  
                  tot-i=te-

③ 買う kaw-    kaϕ-i=te-  
                  Kat-i=te-

これで一通りすべての音便形について考えたが、まだ一つ  
例外的な「行って」が残っている。これに触れることにする。

動詞テ形音便

行きて yuk-i =te-

彼  
yuk-  
te-  
i-

ゆきている  
yuk-i =te-∅i=i-  
yuk-i =te-  
yuk-i =te-  
it-i =te-

**k**  
接触

**i**  
接触解除

**t**  
接触

yuk-i- → yuk-i- → ik-i-  
yuk-i=te- の段階で k を省略すると、拍数が保てない。  
ak-i=te, yak-i=te は k を省略しても拍数が保てる。  
語幹の k を発音し, yuk-i=te-, 逆行同化で t に変音。

**t**  
接触(前部)

**i**  
it-i =te-  
行って

**t**  
接触(後部)

動詞テ形音便

音便化一覧表

① t	② r	③ w	④ n	⑤ m	⑥ b	⑦ k	⑧ g	⑨ s
立つ	取る	買う	死ぬ	読む	飛ぶ	鳴く	泳ぐ	指す
tat-i-t	tor-i-t	kaφ-i-t	sin-i-t	yom-i-t	tob-i-t	nak-i-t	oyonη-i-t	saç-i-t
t-i-t	r-i-t	φ-i-t	n-i-t	m-i-t	b-i-t	k-i-t	η-i-t	ç-i-t
t--t	r--t	φ--t	n--t	m--t	b--t	-i-t	η-i-d	ç--t
	t--t	w--t	n--d	m--d	m--t		-i-d	
		t--t		n--d	m--d			
					n--d			
って	って	って	んで	んで	んで	いて	いで	(して)

動詞テ形音便

**一段動詞(母音幹動詞)はなぜ音便化しないのか**

子音幹動詞は 子音-i=t の2回接触が1回接触になる。→音便化

音便化 立ちている     tat-i=te-∅i=i-     t接触 i非接触 t接触

音便化 鳴きている     nak-i=te-∅i=i-     k接触 i非接触 t接触

母音幹動詞は 子音-i=t の部分がなく、はじめから1回接触。

非音便化 起きている     oki-∅i=te-∅i=i-     i非接触 t接触

非音便化 食べている     tabe-∅i=te-∅i=i-     e非接触 t接触

音便: 拍数を保ち、2回の接触を1回に減じる省力。

一段動詞ははじめから1回の接触しかないので音便化の必要がない。

動詞テ形音便

同じ環境で音便化しない場合

飲みて  $nom-i=te-\emptyset i$       飲んで  
 飲みた  $nom-i=t-\emptyset i=a-\emptyset u$       飲んだ  
 飲みたい  $nom-i=ta.k-i$       \*飲んだい

t- の構造意味: 出来事が開始後のアスペクト領域にある。      ta.k- の構造意味: 動属性の表す事態が現実世界に実現することを話者が望んでいる。

t- がアスペクトである場合にこの音便化が起こる。

動詞テ形音便

この項目で考えようとする問題

- ① 音便はどういう原則を持つのか。
- ② 一段動詞はなぜ音便化しないのか。
- ③ 五段動詞それぞれの音便形はなぜそのような形になるのか。
- ④ 「買う(w-)」はなぜ促音便になるのか。
- ⑤ 「飛ぶ(b-)」はなぜ促音便ではなく撥音便になるのか。
- ⑥ イ音便であるはずの「行く(k-)」はなぜ例外的に促音便となるのか。
- ⑦ 「泳ぐ(g-)」はなぜテを濁音化するのか。
- ⑧ 「指す(s-)」はなぜ音便形を持たないのか。
- ⑨ 「～たい」形表現(飲みたい)はなぜ音便形にならないのか。

動詞テ形音便

**尊敬4動詞の音便** 泣く甥 なくおい

なさる	+ます	→	なさります	→	なさいます
くださる			くださります	→	くださいます
おっしゃる			おっしゃります	→	おっしゃいます
いらっしゃる			いらっしゃる	→	いらっしゃいます

ります → います

これはどんな音便か

動詞テ形音便

**尊敬4動詞の音便** ります → います

**kudas-ar-i=mas-**  
くださいます

**ir-as-e-rar-i=mas-**  
いらっしゃいます

-(r)ar- は 尊敬(受動)の 態詞(助動詞)

動詞テ形音便

尊敬4動詞の音便

くださいます

kudas-ar-i=mas-

接 接 接  
触 触 触  
解 除

2回の接触を1回に減らすために r を省略。

kudas-ar-i=mas-

動詞テ形音便

尊敬4動詞の音便

なさる

nas-ar-i=mas-

くださる

kudas-ar-i=mas-

おっしゃる

ohose-rar-i=mas-  
o s s y ar-

いらっしゃる

ir-as-e-rar-i=mas-  
ir ass y ar-

ある ar-, 計る hakar- は なぜこの音便化を生じない？

動詞テ形音便

尊敬4動詞の音便

ござる → ござります → ございます

これは 尊敬4動詞の音便と似ている。 だが違う。

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

ござあります

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

ござりんす

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

ござります

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

ござんす

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

ございます

**go-za(-ni) ar-i=mas-**

がんす

尊敬4動詞の音便のよう。  
しかし、この ar- は動詞。

つまり、いろいろな省略形の中  
の一つである。

受身(尊敬)の態詞ではない。

動詞テ形音便

課題: 任意の動詞について音便化を説明してください。

この項目で考えようとする問題

- ① 音便はどういう原則を持つのか。
- ② 一段動詞はなぜ音便化しないのか。
- ③ 五段動詞それぞれの音便形はなぜそのような形になるのか。
- ④ 「買う(w-)」はなぜ促音便になるのか。
- ⑤ 「飛ぶ(b-)」はなぜ促音便ではなく撥音便になるのか。
- ⑥ イ音便であるはずの「行く(k-)」はなぜ例外的に促音便となるのか。
- ⑦ 「泳ぐ(g-)」はなぜテを濁音化するのか。
- ⑧ 「指す(s-)」はなぜ音便形を持たないのか。
- ⑨ 「～たい」形表現(飲みたい)はなぜ音便形にならないのか。
- ⑩ なぜ尊敬4動詞は音便化するのか。



